

《第110回》令和四年八月の作品

〈八月十二日（金） 通信句会〉

鰯とんで長州の海暮れにけり

（一江）

天空に浮かぶ古城や秋の風

（孝昭）

雀さえ居場所を探す土用かな

（清助）

梅雨晴れの校庭に満つ子等の声

（平六）

墓洗ひ見上ぐる山の緑かな

（芙紗）

夏の日の昔悲しき手榴弾

（前歩）

コロナ禍に耐へる列島もどり梅雨

（貴美）

また一人黄泉へ旅立つ蟬しぐれ

（正佳）

標識の影でバス待つ炎天下

（正雄）

聞き慣れし友の戯れ言暑気払ひ

（隆治）

ハスの絵の日傘を買ってモネの庭

（奉男）